

留学-どんな困難があっても、突き進むべき

劉明

ここでまず、熱心に指導して下さいました先生方に感謝を申し上げたいと思います。ここまで順調に進学ができたのは先生方の助けと応援があつてのことです。私の留学経験を紹介させて頂きたいと思いますが、後輩の皆さんに少しでも役に立つ情報を提供できたら幸いです。

勉強編

私は長春理工大学電信学院を卒業して、2013年10月、亜細亜友之会外語学院に進学しました。現在は公立首都大学東京システムデザイン研究科修士課程に在学しています。日本に来る前に、数ヶ月間だけ日本語を独学しました。日本に来て、学校のプレースメントテストを受けて、一番下のレベルのⅠクラスに入れられました。最初は本当にショックを受けて、しばらく落ち込んでいました。自分が理系で日本語ができないのは当たり前で、できないから日本語学校に入ったから、今から一所懸命勉強したら絶対間に合うだろうと自分を励ました。今思えば、一番下のレベルのクラスに入れられたのはむしろ良かったと思います。悔しくて絶対に追いつくぞという気持ちで基礎からしっかり日本語を勉強することができました。

ところで、もし英語の成績が優秀だったら、理系の学生が日本の大学院に進学するのはとても有利だと思います。初めてお目にかかった教授に、TOEIC800点の点数を見せたら、見事に筆記試験の免除の推薦を頂きました。英語の成績は理系の学生にとって本当に大事なことだと思います。

大学院進学の際になり、N2に合格したばかりの私にとって、1000文字の研究計画書なんて書けるわけがありません。先生方のおかげで、研究計画書を何とか完成させることができました。校長先生と他の諸先生の細かな面接練習のおかげで、無事に面接試験を通過することができました。

アルバイト編

日本語がまだ一言も喋れなかった時に、学校の紹介で、ヤマトで荷物仕分けのアルバイトをさせて頂きました。その後、日本語が少し上手になって、自分で居酒屋のアルバイトを見つけました。日本人の真面目な仕事ぶりや店長の食品衛生に対する厳しさがとても印象に残りました。日本人と接しているうちに、日本の社会に少しずつ溶け込んで、日本人の考え方も理解できるようになったと思います。

生活編

日本に来て、毎日の生活は勉強とアルバイトだけです。何度もなぜわざわざこんな苦勞ばかりの道を選んだのかと自分を問い詰めました。9月は私の留學生活の中で、一番暗い時期でした。家庭の事情もあつて、進路にも悩んで、どうしたらいいのか全く見当も付きませんでした。その時に、石川先生と学校のほかの先生から、多くの励みと応援を頂きました。最後に、私を応援して下さった先生方、友人の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。